

社員総会報告

前号でご案内のように、去る5月11日(土)青葉区区民交流センターで社員総会が開催され、2007年度の事業報告と収支計算書の承認、2008年度の事業計画案・予算案の審議と議決をいただきました。ご協力ありがとうございました。以下その一部を報告させていただきます。(詳細については事務局に請求下さい。議事録のコピーをお送りします)



* 本人出席：10名、表決委任25名
(社員総数52名)
前列左から：仲井間・安達・山崎・前田
後列左から：高井・油井・丸尾/事務局
長橋・九島・相田・渡辺
(撮影：柳澤/事務局)

- * 事業報告・収支計算書に関する質疑から：
 - ① 医療は入院支援などの対症療法的なものから衛生研修やトイレ・水道建設など予防のために事業を増やした。
 - ② 社員会費比率が低いのは認定NPO法人条件に合致させるため、条件緩和の今はむしろ運営費捻出のため社員数増加に努力したい。
- * 事業計画・収支予算について
 - ① 6月で終了の3年限定給食を月200ドルに減額して継続実施する。
 - ② パンプ更新他広報活動を強化する。
- * 新役員：

<理事> 再任：山崎(理事長) 安達(副理事長)
古川(副理事長)
新任：前田(総務) 仲井間(イベント担当)

<監事> 再任：山口慎輔

「日比NGOシンポジウム」に参加したらHANDSの全体像が見えてきた

理事：仲井間淑子

梅雨明けを思わせる猛暑の7月17日から三日間に渡って開催された第二回日比NGOシンポジウムの初日のプログラムに参加しました。

在日フィリピン大使などの挨拶の後、元フィリピン上院議員で先住民族権利法制定にも尽力されたホエン・フラビエ氏による基調講演や、HANDSの山崎さんも参加したパネルディスカッションが続き、午後は「平和構築」「少数民族」などいくつかの分科会に分かれての話し合いで、私はPFPPのロニーさん、山崎さん、九島さんと共に「少数民族分科会」に加えていただきました。

一日だけの参加でしたが、会場に集まった日比NGOのフィリピンの貧困問題解決にむけての熱い思いを肌で感じました。ODA資金が有効に使われなければいけないこと、また、双方のNGOが互いに協力することの重要性を強く感じましたが、私にとって一番の収穫は新米理事としてHANDSの多岐にわたる活動、現地パートナーとの協力関係がわかり始めたことでしょうか。

会費を納めるだけの会員だった私を、「もう少し深くHANDSと関わってみたい」に変えたのは、九島さんが製作したカレンダーの子どもたちの姿でした。頭に水がめを載せ、これももうすぐ終わる、水道が来るんだと嬉しそうな男の子、太い竹を一本づつ肩にかけ「保育園の壁にするの」と引きずりながら運ぶ女の子たち・・・に貧しかった子供時代を思い出していました。私の住む町よりさらに数年遅れてひかれた水道に「ひねるとジャー」だよと大喜びした海辺の村の従兄弟たち。「学費を出してほしい」と頼みにきて「うちにも余裕がないから」と父に断られすごとと帰っていった従兄弟のこと・・・ついこの間のことのようにです。

今回ロニーさんと一緒に来日された「ミンダナオ子ども図書館」の松居友さんの「今はノートだペンだというよりも食べるものがいいんです」と食糧価格高騰の影響の大きさについておっしゃったことも忘れられません。だんだんほっとけないことが増えてきました。

今改めてHANDS会報を読んで思います。何と多くの方が関わり、何と多くのことをやってきたのか。そしてこれから何をしたらいいのか、学びながら協力していきたいといます。